

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		06 04 09	中期総合計画主要施策番号		1-06	担当課	部・課	環境部自然保護課	
事業名		環境審査事業					内線	2781	
							E-mail	shizenhogo@pref.nagano.jp	
事業の概要等	事業の目的	環境影響評価制度の適切な運用により、大規模開発事業等において、事業者が環境の保全に適切な配慮を図ることを推進する。							
	事業の必要性	[現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)] 大規模な開発事業に伴う環境への影響が危惧される。							
		[原因分析(ギャップが発生している原因は何か)] 開発事業の内容を決めるに当たって、事業の採算性だけでなく、環境の保全についてもあらかじめ考慮することが重要であるが、必ずしも適切な配慮がなされているとは言えない。							
		[課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)] 開発事業などを実施する際に、あらかじめ、環境に与える影響を事業者自らが調査・予測・評価し、その内容について、住民や関係自治体などの意見を聴くことにより、環境の保全の観点からよりよい事業計画を作り上げていく環境影響評価制度が必要である。							
	事業内容	・環境影響方法書、準備書、評価書の審査、公告・縦覧 ・長野県環境影響評価技術委員会の開催 ・事業者への知事意見 ・事後調査報告書の審査 ・環境影響評価に係る指導・助言							
実施期間	S59 ~		根拠法令等	長野県環境影響評価条例					
成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価	
	環境影響評価が適切かつ円滑に行われ、その事業に係る環境の保全について適正に配慮されること。		環境影響評価技術指針等に基づき環境影響評価が適切に行われているかを、2件の事案について審査する。			・長野広域連合Aごみ処理施設の環境影響評価方法書を3回の技術委員会により審査し、環境保全のための知事意見を通知した。 ・青崩峠道路の環境影響評価準備書を3回の技術委員会により審査し、環境保全のための知事意見を通知した。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下	
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要		
	最終予算額 (A)		千円	1,182	1,929	2,193	国庫・県単	県単	
	決 算 額 (B)		千円	607	1,446		実施方法	直接	
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	607	1,446	2,193	歳出節別内訳等	報酬 652 旅費 600 役務費 189	
	概 算 人件費	従事する職員数	人	4.00	4.00	3.00	(単位: 千円)		
	概算人件費 (C)		千円	28,560	28,560	21,420			
概算事業費 (B(H21はA) + C)		千円	29,167	30,489	23,613				
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績		
	環境影響評価方法書等の審査件数		件	2	2	2	・県公共事業における環境配慮制度の構築を検討するため、試行案件の審査(2件)を行った。		
	事後調査報告書の審査件数		件	4	4	2			
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明						
	事業のニーズの変化	増加	横ばい	減少	判定の説明	・県民の要望に応じて平成19年度に条例を改正し、「風力発電所の建設」を対象事業に追加した。 ・環境影響評価制度に基づく審査は、第三者的立場の県が行う必要がある。 ・県公共事業について、環境に配慮するための制度(環境配慮制度)の試行を実施。			
	県の関与を見直す余地	余地なし	当面余地なし	余地あり					
	有効性を高める余地	余地なし	当面余地なし	余地あり					
	効率性を高める余地	余地なし	当面余地なし	余地あり					
課題の総括		環境影響評価制度を適切に運用するとともに、現在試行中である県公共事業について、引き続き試行し、環境配慮制度を構築する必要がある。							